

平成23年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策	対応者	措置(予定)年月日	左記に対する対応状況・今後の方針
1	長岡線 (岩手県交通) 【国庫】	盛岡市 紫波町	(1) 利用促進策と運行の効率化により、路線の維持・確保を図る必要がある。	(1) ① 「まちなか・おでかけバス」の購入者の増加に向けた対策を講じる。	岩手県交通 盛岡市	平成24年度中	盛岡市と共にPRに努める。
				② 平成23年10月のダイヤ改正後の利用状況と利用者の意向を把握する。	岩手県交通	平成24年度中	系統別実態調査を実施し、現状の把握に努める。
			(2) 日赤病院前を経由するルートになっていない。	(2) ① 住民ニーズがあると思われることから、日赤病院前を経由するルートへ変更することについて検討する。	岩手県交通		約2.0kmの延伸となり、既存利用者に対しサービスの低下に繋がることが懸念される。大幅な経路の見直しが必要となった際の検討事案としたい。
		(3) 都南以南の住民ニーズを改めて見直す必要がある。	(3) ① 補助要件割れとなった場合は、都南以南の路線の運行の意義を見直す。ただし、都南以北については他の系統と合わせて路線を形成しているため、それらと一体的に検討する。	岩手県交通		補助要件を満たせなかった場合の対応ではあるが、効率的な運行については競合路線と含めて今後も検討を進める。	
2	永井回り志和線 (岩手県交通) 【国庫】	盛岡市 紫波町 矢巾町	(1) 利用促進策と運行の効率化により、路線の維持・確保を図る必要がある。	(1) ① 「まちなか・おでかけバス」の購入者の増加に向けた対策を講じる。	岩手県交通 盛岡市	平成24年度中	盛岡市と共にPRに努める。
				② 利用実態に応じて、ダイヤや運行区間を調整する。	岩手県交通		(4)と併せての調整としたい。
			(2) 市町村をまたいで利用する場合に、運賃が割高と受け取られる。	(2) ① 運賃の見直しを検討する。	岩手県交通		割安な運賃設定となると利用者が増えなければ収支の悪化に繋がる。バスカード・定期券等で利用頻度に応じた割引は設定されているので運賃の見直しは見送りたい。
			(3) 路線周辺の住民の中には、最寄りの停留所でも自宅から2km以上離れている者もいる。	(3) ① 停留所の適切な設置個所について検討し、必要に応じて設置個所を変更・新設する。	岩手県交通	平成25年5月予定	周辺道路の状況等によっては停留所の移動・新設ができない場合もある。現地確認の上、出来る範囲で実施するよう検討を進める。
			(4) 桜屋～永井の区間は、見前回り志和線と差別化している区間と考えられるが、当該区間の維持が必要であれば、地域住民等に対して更に利用促進を図る必要がある。	(4) ① 地域住民等に対する利用促進策を実施する。 ② 桜屋～永井間を維持する必要性が高くなければ、見前回り志和線との路線統合について検討する。	岩手県交通 岩手県交通	平成24年度中	沿線住民のニーズを把握した上で利用促進策を講じるか、路線統合を考えるか関係市町村と検討・協議を進める。
			(5) 停留所「飯岡駅前」と「仙北組町」があるため、「飯岡駅前」と「仙北町」は必要性が高くない。	(5) ① 「飯岡駅前」と「仙北町」の廃止を検討する。	岩手県交通		当該バス停は他系統でも使用している。利用者も相当数あり廃止は考えていない。
			(6) 都南以南の住民ニーズを改めて見直す必要がある。	(6) ① 補助要件割れとなった場合は、都南以南の路線の運行の意義を見直す。ただし、都南以北については他の系統と合わせて路線を形成しているため、それらと一体的に検討する。	岩手県交通		補助要件を満たせなかった場合の対応ではあるが、効率的な運行については競合路線と含めて今後も検討を進める。
			(7) 紫波町民が当該路線を利用して日詰駅で鉄道に乗り換える場合の便がよくない。	(7) ① 需要に応じて、当該路線と日詰駅発の鉄道との接続性を高める。	岩手県交通	平成24年度中	必要な時間帯について接続が図れるよう検討する。
			(8) 日詰駅～野岸間は、比較的住宅が密集していると思われるが、区間距離が1.3kmある。	(8) ① 日詰駅～野岸間の停留所の設置場所が適切か検討する。	岩手県交通	平成24年度中	現地確認の上、出来る範囲で実施するよう検討を進める。
(9) 上矢次停留所(盛岡方面行き)に時刻表が掲示されていないように見受けられる。	(9) ① 上矢次停留所の時刻表示など、各停留所の表示状況を点検する。	岩手県交通	平成24年度中	上矢次バス停については速やかに対処する。各バス停は適時点検を行い、必要に応じて補修する。			
3	藤崎線 (岩手県交通) 【国庫】	一関市	(1) 地域住民への広報等、利用促進に向けた取組みを行う必要がある。	(1) ① 岩手県交通の路線バスと市営バスのダイヤ等を併載した時刻表を作成し、住民に配布する。	岩手県交通 一関市	平成24年10月予定	ダイヤ改正作業と併せて、沿線住民・地区に係る路線時刻表の作成・配布を一関市の協力を得ながら実施する。
			(2) 土日祝日の増便を望む声がある(一関市中心部での買い物やイベントへの参加等のため)。	(2) ① 土日祝日の増便について検討する。	岩手県交通	平成24年度中	一般的に土日祝日の利用は少なくなる。要望はあるものの利用が少なければ費用が嵩む結果となり、藤崎線自体の維持が難しくなる。再度実態を把握した上で、収支改善に繋がるのであれば実施に向けて検討する。
			(3) フリー乗降区間が設定されていない。	(3) ① 可能な限り川沿いの山間部などにフリー乗降区間を設ける。また、フリー乗降区間乗降中はメロディーバスにする。	岩手県交通	平成24年度中	フリー区間の設定については関係機関と調整を図る。
			(4) 国庫補助により維持されている路線であることについて、住民に認知されていない。	(4) ① 車内で行われている国庫補助路線である旨のアナウンスとともに、車内掲示や時刻表に補助路線である旨を記載すること等により、更なる周知を図る。	岩手県交通 一関市	平成24年10月予定	周知の方法等、ダイヤ改正時に向けて実施できるよう一関市と検討を進める。
			(5) 藤沢病院の通院者に対応した運行経路となっていない。	(5) ① 藤沢病院を経由する運行経路へ変更することを検討する。	岩手県交通	平成24年10月予定	バス乗入に伴い、安全面等支障がないようであれば、ダイヤ改正時に併せて実施できるよう作業を進める。

平成23年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策	対応者	措置(予定)年月日	左記に対する対応状況・今後の方針
3	藤崎線 (岩手県交通) 【国庫】	一関市	(6) 車両の大きさが利用者数に見合っていない。	(6) ① 利用実態に応じて、車両の小型化を図る。	岩手県交通	平成24年度中	車両運用上、全便対応は難しい。費用対効果として大きな改善は得られないが、中型車での運行については検討する。
			(7) 運行時間帯などに関する利用者ニーズを把握する必要がある。	(7) ① アンケート調査により、地域住民のニーズを把握する。	岩手県交通 一関市	平成24年度中	利用者に対し聞き取り調査を実施する。
			(8) 一関市街は「なの花バス」と、川崎町内は市営バスとの重複区間がある。	(8) ① 「なの花バス」や市営バスを含めて、便数が充実しているように見せる工夫を講じる。	岩手県交通 一関市	平成24年度中	コミュニティバス、市営バスとで運行形態が異なるが、路線バスと併せて効率的な運行について協議・検討を進めたい。
			(9) 一部の停留所の表示が見えにくくなっている(館石停留所等)。	(9) ① 停留所の表示を点検する。	岩手県交通	平成24年度中	適時、点検・補修を行う。
			(10) 車内での次の停留所に関する案内放送のタイミングが若干遅いときがある。	(10) ① 車内放送を適時行うよう努める。	岩手県交通	平成24年5月	現場に対し通達・指導を行う。
			(11) 一関市のホームページにおいて、バスの運行情報関連ページが見つけにくい。	(11) ① 一関市のホームページにおいて、市営バスや岩手県交通など、地域の交通情報に関するページを設ける。	岩手県交通 一関市		県交通HPへのリンクと情報提供に努める。
			(12) 運賃の引下げに関する住民からの要望がある。	(12) ① 岩手県交通が販売している土日祝日専用のフリーパス(1,000円)のPRを強化するとともに、販売先の拡充について検討する。	岩手県交通	平成24年10月予定	ダイヤ改正時に併せて、バス停・時刻表などに土日祝日フリーパスのPRを掲載するよう検討を進める。
			(13) 藤崎線の停留所から離れた地域の住民の利便性を高める必要がある。	(13) ① 一関市において、デマンドタクシー等の幹線までの支線を設ける。	一関市		
(14) 現在の路線名では、どこを運行する路線なのか利用者にとって分かりにくい。	(14) ① 「藤沢・川崎線」など、運行地区が分かりやすい路線名にする。	岩手県交通	平成24年度中	観光客等の地域外利用者の為には必要だと考えられる。路線の目的を考慮したうえで検討したい。			
4	大籠線 (岩手県交通) 【国庫】	一関市	(1) 路線の維持を望む声が多いが、実態は自家用車の利用者が多く、また、高齢者の運転免許所有者が増加していることから、バスの利用に結びついていない。	(1) ① 車内掲示や時刻表・広報誌等の配布により、利用促進を図る。 ② 時刻表に、高齢者を対象とした目的別のバス利用の例を掲載する。	岩手県交通 一関市 岩手県交通 一関市	平成24年10月予定	ダイヤ改正作業と併せて、沿線住民・地区に係る路線時刻表の作成・配布、目的別利用例の掲載を一関市の協力を得ながら実施する。
			(2) 土日祝日の増便を望む声がある(一関市中心部での買い物やイベントへの参加等のため)。	(2) ① 土日祝日の増便について検討する。	岩手県交通	平成24年度中	一般的に土日祝日の利用は少なくなる。要望はあるものの利用が少なければ費用が嵩む結果となり、大籠線自体の維持が難しくなる。再度実態を把握した上で、収支改善に繋がるのであれば実施に向けて検討する。
			(3) 車両の大きさが利用者数に見合っていない。	(3) ① 利用実態に応じて、車両の小型化を図る。	岩手県交通	平成24年度中	車両運用上、全便対応は難しい。費用対効果として大きな改善は得られないが、中型車での運行については検討する。
			(4) 運行時間帯などに関する利用者ニーズを把握する必要がある。	(4) ① アンケート調査により、地域住民のニーズを把握する。	岩手県交通 一関市	平成24年度中	利用者に対し聞き取り調査を実施する。
			(5) 運行時刻をより分かりやすくする工夫が求められる。	(5) ① 運行時刻の分単位を揃えるパターンダイヤの導入について検討する。	岩手県交通	平成24年10月予定	鉄道・バスとの接続を考慮したうえで可能であれば実施したい。
			(6) 起終点である千松以南における運行ニーズを探る必要がある。	(6) ① ニーズに応じて宮城県気仙沼市本吉町まで運行区間を延伸することについて検討する。	岩手県交通		(4)のニーズ調査を実施した後の検討としたい。
			(7) 大籠線と藤崎線の乗換え時間が一部の便で合わない。	(7) ① 大籠線と藤崎線の接続性を高め、千厩・藤沢方面から一関方面へバスで移動する際の利便性を向上する。	岩手県交通	平成24年10月予定	藤崎線その他、一関方面へは鉄道、路線バス【特急一関線、本郷線】とある。ニーズを踏まえた上で各路線への接続を検討したい。
			(8) 千厩町民が一関方面へ移動する際のニーズを掘り起こす求められる。	(8) ① 千厩町民(主に高校生)に対して、大籠線と藤崎線の併用についてPRする。	一関市 岩手県交通		一関市中心部への需要であれば鉄道、他路線【特急一関線、本郷線】で確保されていると思われる。(7)の対応で進めていきたい。
			(9) バス・鉄道が連携し、利用者サービスの向上を図ることが求められる。	(9) ① 岩手県交通とJRの共通乗車券を企画・販売する。	岩手県交通		(4)のニーズ調査を実施した後の検討としたい。
			(10) 平日に比べて、土日祝日の利用者が少ない。	(10) ① 岩手県交通が販売している土日祝日専用のフリーパス(1,000円)のPRを強化するとともに、販売先の拡充について検討する。	岩手県交通	平成24年10月予定	ダイヤ改正時に併せて、バス停・時刻表などに土日祝日フリーパスのPRを掲載するよう検討を進める。
			(11) 一部の停留所の表示が見えにくくなっている。	(11) ① 停留所の表示を点検する。	岩手県交通	平成24年度中	適時、点検・補修を行う。
			(12) 車内での次の停留所に関する案内放送のタイミングが若干遅いときがある。	(12) ① 車内放送を適時行うよう努める。	岩手県交通	平成24年5月	現場に対し通達・指導を行う。

平成23年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策	対応者	措置(予定)年月日	左記に対する対応状況・今後の方針
5	馬留線 (岩手県交通) 【国庫】	奥州市	(1) フリー乗降区間を設定することが求められる。	(1) ① フリー乗降区間の設定について検討する。	岩手県交通	平成24年度中	現地調査、関係機関との調整を図った後、ダイヤ改正までに実施するよう作業を進める。
			(2) 地域資源を活用した利用促進策を講じることが求められる。	(2) ① 路線近隣の温泉施設(ひめかゆ、すばおあご、石田温泉等)と連携した利用促進策を実施する。	岩手県交通	平成24年度中	効率的な運行と利用促進策(2)、(3)並行で検討を進めたい。
			(3) 馬留線と行政目的バスとで、運行経路が一部重複している。	(3) ① 行政目的バス利用者の馬留線利用への転換を促進するため、利用者補助制度等を設ける。	岩手県交通 奥州市		
			(4) 車内放送の音量が低い。	(4) ① 車内放送を適切な音量にする。	岩手県交通	平成24年5月	現場に対し通達・指導を行う。
			(5) 車内での次の停留所に関する案内放送のタイミングが遅いときが多々ある。	(5) ① 車内放送を適時行うよう努める。	岩手県交通	平成24年5月	現場に対し通達・指導を行う。
			(6) 一部の停留所の表示が見えにくくなっている(土橋停留所等)。また、片道にしか停留所が設置されていない箇所がある。	(6) ① 停留所の表示を点検する。また、往路・復路への停留所の設置について検討する。	岩手県交通	平成24年10月予定	ダイヤ改正作業と併せて、停留所の点検・補習を行う。両側バス停の設置については道路事情により難しい箇所もある。
			(7) 市営バスが数種類あり、利用者にとって分かりにくい。	(7) ① 全ての市営バスが網羅された時刻表等を作成し、市民に配布する。	奥州市		
6	成田線 (岩手県交通) 【県単】	花巻市 北上市	(1) 花巻市と北上市をまたがったの利用者が少ない。	(1) ① 需要が一定程度ある成田地区(市境)への対応方針を整理した上で、路線の分割について検討する。	岩手県交通 花巻市 北上市	平成24年度中	効率的な運行形態について、関係機関と協議・検討を進める。
			(2) 成田線と鉄道(花巻駅、北上駅)との接続性を高めることが求められる。	(2) ① 成田線と鉄道のダイヤを適正なものとし、利便性を高める。	岩手県交通	平成24年10月予定	利用実態を踏まえた上で、鉄道との接続を考慮した時刻の見直しを行う。
			(3) 成田線沿線の学校や北上工業団地のニーズの掘り起こしを行うことが求められる。	(3) ① 各学校や北上工業団地に立地する企業のニーズを踏まえ、利用促進のPRを行う。	岩手県交通 花巻市 北上市		路線の分割について、方向性が固まった後の検討としたい。
			(4) 車両の大きさが利用者数に見合っていない。	(4) ① 利用実態に応じて、車両の小型化を図る。	岩手県交通		車両運用上、全便対応は難しい。費用対効果として大きな改善は得られないが、中型・小型車での運行については検討する。
			(5) 朝(通学時間帯)と昼(12時台)の間の交通手段がない。	(5) ① 朝と昼の間に運行する便の創設について検討する。	岩手県交通		路線の分割について、方向性が固まった後の検討としたい。
			(6) 地域住民に対する利用促進に向けた取り組みを行う必要がある。	(6) ① 市広報誌や停留所、車内掲示等により、利用促進に関するPRを行う。	岩手県交通 花巻市 北上市	平成24年度中	停留所、バス車内に路線図、運賃等の情報案内を掲示するよう検討する。
			(7) 車内放送の音量が低いときがある。	(7) ① 車内放送を適切な音量にする。	岩手県交通	平成24年5月	現場に対し通達・指導を行う。

平成23年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策	対応者	措置(予定)年月日	左記に対する対応状況・今後の方針
7	早坂高原線 (JRバス東北) 【国庫】	盛岡市 岩泉町	(1) 利用促進策と運行の効率化により、路線の維持・確保を図る必要がある。	(1) ① 「まちなか・おでかけバス」の購入者の増加に向けた対策を講じる。 ② 利用実態に応じて、ダイヤや運行区間を調整する。	JRバス東北 盛岡市 岩手県交通	H24.12月	お出かけバスの認知度を高めるため、盛岡市内のバス停にお知らせ文書の掲出及びバス車内にチラシを設置することを考えています。
			(2) フリー乗降区間の設定について検討する余地がある。	(2) ① フリー乗降区間の設定について検討する。	JRバス東北	予定なし	現時点ではフリー乗降は考えていません。ただし、お客さまの声、ニーズが高いのであれば関係箇所と協議しながら必要なバス停の新設を考えていきたい。
			(3) 新幹線(盛岡駅)など、他の路線への接続を考慮する余地がある。	(3) ① 新幹線等への接続性を高めることについて検討する。	JRバス東北	H24.12月	効率的に接続できるよう時間設定はしておりますが、今後もお客さまが必要とされている時間の把握に努め、ご要望に応じていきたいと考えています。しかし、運行便数の関係ですべてのお客さまにご満足いただけることには現状では無理があります。
			(4) JRバス東北のホームページや車内、停留所において利用促進PRがなされていない。また、岩泉町における利用促進PRについて改善の余地がある。	(4) ① JRバス東北において様々な手法を用いた利用促進PRを行う。 また、岩泉町における利用促進PRの方法や内容の見直しについて検討する。	JRバス東北 岩泉町	H24.5月	弊社ホームページを有効的に活用する等、ホームページの改修を進める。また、バス車内、バス停留所に利用促進のポスターの掲出を早い時期に行う。また、岩泉町においても、広報誌に利用促進を促す情報を掲載する等お願いしたい。
			(5) 各種利用促進策や利便性向上策を講じる余地がある。	(5) ① 回数券を導入する。 ② 往復割引券を導入する。 ③ 龍泉洞や岩洞湖などの地域資源を活用した路線バスツアーの造成について検討する。 ④ 乗降ロステップの補助台を設置する。	JRバス東北 JRバス東北 JRバス東北 JRバス東北	H24.5月	先日のご意見の中ではお客さまが降りられるときに、運賃支払いに時間がかかってしまい他のお客さまの迷惑になるということでしたので、乗務員に対してしっかり指導しお客さまが焦らずともいいような教育をしていきます。  (5)の①と同様です。  外山高原そば、岩泉町での松茸の季節には、当路線を利用した小さな旅をご提案し催行してます。弊社HPに小さな旅情報を掲載し懇話を図っています。今後もいろいろ企画をしていきます。  現在早坂線に使用している車両にはニーリング(車高を下げる機能)があります。また、補助台を設置することにより、台の出し入れに時間がかかったり、お客さまにご負担をかけてしまうことが予想されます。また冬場は積雪のため足場が不安定になりけがをされる懸念もありますので現状どおりでお願いします。
			(6) 車両の大きさが利用者数に見合っていない。	(6) ① 利用実態に応じて、車両の小型化を図る。	JRバス東北	予定なし	小型車に限定してしまうと突発的に発生する多客に対応できず、お客さまにご迷惑をおかけしてしまうことが懸念されます。なお早坂高原線に使用している車両は、弊社全体の車両運用に基づき効率的に実施しているものであります。また、乗車時間2時間20分程度を考慮したとき、現行の車両のほうが快適にご乗車できるものと考えています。